

智頭スギのブランド化を応援する企業に 智頭農林高校の生徒がインタビューしました

インタビュー紹介①
ASNARO ※P18もチェック
鳥取県八頭郡智頭町郷原238
<https://asnaro-wood.com/>



智頭農林高校から車で10分ほど、国道53号線を佐用・姫路方面に向かい、途中で芦津に向かう道を進むと、旧山形小学校があります。駐車場に着くと、二階から明るい元気な声で声をかけられました。代表の小畑さんでした。

智頭町の旧山形小学校でこのような事業をしようと思ったのはなぜでしょうか？

出身は大阪府で高校を卒業して、鳥取県内の大学に進学しました。大学で森林ボランティアサークルの活動を通して三朝や智頭などに行ったのが智頭を知った最初です。智頭町内の企業や町民のみなさんにとっても良くしてもらい返したいと考えました。

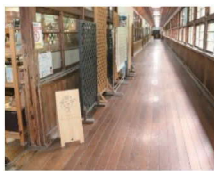
国産材にこだわりを持つようになったのはなぜでしょうか？

国産材にこだわりを持っている一番の理由は「林業を助けるため」。そのために国産材を売り、環境を良くしようと考えています。林業を助けるためには木材の価値を上げることが大切です。

樹種や産地にこだわりを持たれるようになったきっかけは何でしょうか？

木材は山で育てる農作物であり、野菜よりも長い年月がかかるので産地や樹種によって品質が違い、厳選して利用します。

ASNAROの製品は、お客さんが手に触れて使うものが多いので、割れるようなものではダメ、智頭の木材は品質がよく、割れにくいので製品にするとよいのです。



智頭杉に対してどのような思いを持たれていますか？

個人的には推していきたい。林業を応援したい。木材の価値を高くすることで、森林が見直され、森林保全にもつながっていくと考えています。



今のASNAROさんは何を目標としておられますか？

目標は三つあります。一つ目は国産材という原材料を当たり前にする、樹種を選べるようにしたい、もっと身近になってほしい。二つ目は商品に天然木という表示だけではなく、樹種を表示してほしい。三つ目は有名な材がある県、町ではそこで起業するだけで得がある。「可能性を感じてもらえる」智頭をそんな街にしていきたい。

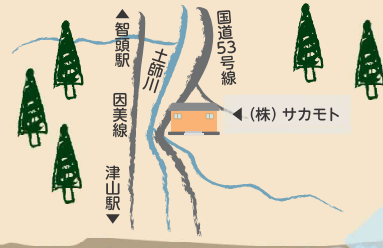


Check Point! 農林生のチェックポイント

事務所には、木製品のギャラリーが併設されています。購入希望の方は、智頭駅前の智頭町観光協会さんや鳥取駅のおみやげ屋さんなどで購入できます。POKEMONの商品も制作されているようです。

インタビュー紹介②
株式会社サカモト ※P56もチェック
鳥取県八頭郡智頭町山根520-1
<https://woodymind.com/>

サカモトさんのある場所の略地図



智頭農林高校から車で5分ほど、国道53号線を岡山方面に向かう道を進むと、(株)サカモトの入り口が国道沿いにあります。事務所に入って、しばらくして社長さんが作業から戻って来られました。

智頭町での会社の始まり、きっかけは何ですか？

1951年祖父が創業し、当時、製材業は儲かるとい理由から起業した。

使用木材へのこだわりはありますか？

智頭の木は柾目がきれい。木がよく伸び、材木が多くとれるので、できる限り全部使いたい。小物、建築材、合板材など、お客さんの幅広いニーズに対応することで木を無駄にしないように心がけている。

少子高齢化になってきて山人なども減ってしまうので智頭町や会社が縮小してしまう、それをさせないために木を無駄なく使用するようにしたい。



智頭杉への思いはありますか？

智頭杉の気づいていない特性を解き明かし、その特性を活かした商品を作りたいと思っている。

木材を加工する際に気をつけることはありますか？

怪我をしないように安全に作業をする。自分自身も怪我をしたことがある。



ケボニー化処理とは何ですか？

木の特性は本来、腐って栄養になることだが、長持ちをさせるためには腐ってはいけないので、木材にアルコール化合物による処理を行い、強度を高めている。

これからの目標を教えてください。

- 3つのキーワードがある。
- ①「自然」自然と生きたい
 - ②「人間」人間を大切に
 - ③「自由」しぼられたくない

「この他、情報発信についても教えてくださいました。」

従来の方法だけでなく、スマホやQRコードを利用して、時代に合った方法で行ってほしい。



Check Point! 農林生のチェックポイント

社長さんはとても気さくに話をしてくださいました。社員のみなさんが集中して、大型機械を安全に効率よく操作していることが印象に残りました。木を無駄なく、全部使うという考えがSDGs（持続可能な開発目標）が目玉されている今の時代に合っていると感じました。

本記事は、2023年に鳥取県立智頭農林高等学校の生徒がインタビューしたものです。智頭農林高校は鳥取県内で唯一、森林科学科を有する高校で、林業の学習ができる森林応用コースと木製品の技術の学習ができる木材加工コースがあります。板井原演習林の実習や木材加工の基礎・基本から高度なレーザー加工機を離脱した実習まで専門的な学習ができます。

所在地：鳥取県八頭郡智頭町智頭711番地1 HP：<https://www.torikyo.ed.jp/tizuno-h/>

生徒が企業のインタビューをした智頭農林高校の紹介

智頭農林高校は、400年以上前に植林されたとされる『慶長杉』が残る、歴史ある林業地、智頭町に位置しています。森林科学科は、県内唯一の林業に関する学科であり、地域産業担い手を育成するため、地元の森林組合や林業家、県と連携した取り組みを行っています。校舎から約8km離れた上板井原地区に演習林があり、その約6割を杉の人工林が占めています。本校は、地域から期待される林産業の人材育成に力を入れています。将来的には、生徒が作った高校の製品で智頭農林高校のブランド品をつくりたいと考えています。また、学校の授業で調査研究を行い、地域の人々と協力して智頭スギの魅力を全国に発信できるようにしたいです。



智頭宿魅力アッププロジェクト

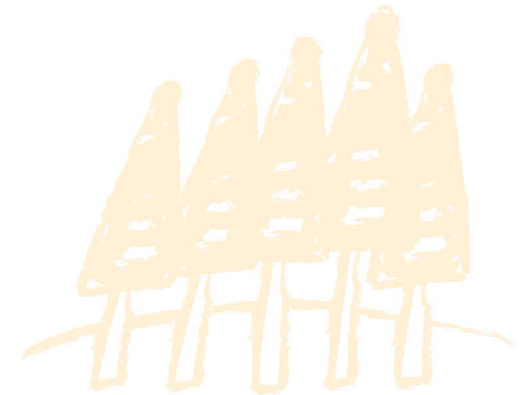
智頭宿魅力アップに貢献するために地域の方々に協力をいただきながら本校の生徒が格子戸と藍染めのれんの作製を行うプロジェクトです。格子戸の材料は智頭スギを使用しています。2023年で10年目になり、智頭町の景観向上に貢献しています。



木製建具

襖、障子、板戸、ドアなど

Joinery 



日本伐木チャンピオンシップ

2023年10月28、29日に大山で行われた第三回日本伐木チャンピオンシップIN鳥取に智頭農林高校生徒が出場しました。本校はアカデミージュニアクラスに出場しました。授業時間や放課後の空き時間を使って練習をし続け、その結果、参加した2チームとも優勝、三位入賞を果たして表彰台に立つことができました。



智頭杉鉛筆について

智頭町の木工作家の方が「農林高校で育った智頭杉を用いて『智頭杉鉛筆』を作りたい」という話を学校に持ってこられました。本校の演習林の杉は、学校で製材され、森林科学科木材加工コースの材料として利用しています。しかし、間伐材や節が多い部分、曲がりの大きなものはあまり利用されてきませんでした。鉛筆の材料とする材は小さく、端材や曲がった材も利用可能、これを有効利用できると考えました。使用した木材は、昭和時代の生徒たちが植えて、平成・令和時代の在校生が授業で伐り出したものです。完成した鉛筆は、木工作家の方が一般で販売しています。



製材品

住宅用構造材、内装材、土木用資材など

Material

